

加藤勘十君並に

組合同盟の反省を促す

品川製作所爭議に關し全市民に訴ふ

松岡氏名譽毀損の告訴をなす

我等品川製作所従業員一同が、組合同盟醜類の威迫に對抗し、之を工場より掃せん事を期して、正當防衛的罷業を敢行してより既に二旬に及んだが、我等の當初の意氣は益々熾んに、目的貫徹の爲めに一糸亂れざる陣容を以つて、正義の戦を繼續して居る次第である。

然るに近來、組合同盟は、全く正義の沙汰とも思へざる逆宣傳を行ひ、自己の非を棚に上げて、反つて心ある人士を擧げせしめて居るのであるが、殊に奇怪に堪へざるは、松岡駒吉氏に對する中傷、惡罵、逆宣傳である。同氏は今日に至る迄、とるに足らざるものとして別に之に對する反駁は行つて居らないのであるが、先般「組合同盟機關紙労働大家」號外に記載されたが如き事實無根の逆宣傳は、餘りに厚顏無恥であるので、遂に同號外署名人、組合同盟中央委員菊川忠雄君を、名譽毀損を以つて東京地方裁判所に告訴するに至つたのである。従つて一派の逆宣傳が、如何に荒唐無稽噴出鱗目であるかと云ふ事は、やがて法廷に於いて明瞭になる事と信ずる。

本問題の發生に何等關係なき

松岡駒吉氏

一體、品川製作所に於ける今回の問題の發生と、松岡氏個人とは何等關係の無いものであつて、同氏は十月八日より同十二日迄大阪に居られ、我等が醜類の行動に接知を獲かして組合同盟を脱退して總同盟に加入を申込んだのは十月

組合長は名のみで、組合運動からは遠ざかつて居り、代議士運動に全力を傾注して居たのである。然るに、同君の唯一の選挙運動員であり、機械的勞務者たりしところの、品川製作所の組合員である我々が、脱退して總同盟に行つてしまつたのであるから、代議士病患者たる同君の驚愕は想像の出來るところである。ところが、加藤君が、非常に心痛して居るも一つの事は、第五區より松岡駒吉氏が立候補するであらうと云ふ噂である。松岡氏は、宝前工場の職工時代より十六ヶ年、終始一貫労働組合運動に没頭して來た人であつて、先きの總選挙に於いても、百万勸諭を斥けて代議士候補にも立たず、労働組合の仕事に打ち込んで居るのである。次の選挙に出馬するや否やは、我等の未だ同氏より聞かざるところである。

然るに加藤君は、品川製作所の爭議そのものよりも、次の選挙を重大視して居るのであるから、好機逸すべからずとなし、松岡氏の個人中傷に全力を集中し、爭議に關する口は盡く、爭議その事よりも松岡氏の攻撃に依つて埋められて居る始末である。加藤君は選挙の幻影にとりつかれて居るから、選挙のつもりで夢中になつて居るのであらう。

卑劣なる加藤君の心事

我等は繰り返して云ふ。松岡駒吉氏は本爭議に對し直接何等關係は無いのである。然し乍ら、同氏は日本労働總同盟の主事であり、關東労働同盟の會長である責任上、この爭議の合理的解決の爲めに熱心に努力されて居るの極めて當然である。労働總同盟は他に尙幾多の労働爭議があり、處理しなければならぬ問題がある。況んや松岡氏は選挙に夢中になつては居ないので、加藤君